

2023年8月10日(木)

老球の細道744号

名コーチとの出会い「世界のコーチ、トスティン・ロイブル」⑰

会津バスケットボール協会 室井 富仁

若い頃から同年代の小柳ルミ子の大ファンだった。「私の城下町 ♪」「瀬戸の花嫁 ♪」の清純路線から出発した小柳ルミ子だったが、いつからか突然セクシー路線にスタイルを変更した。代表曲が「今さらジロー ♪」「お久しぶりね ♪」である。喜多方女子高校時代の修学旅行で私のクラスのバスに同乗した生徒指導部長のK先生が余興で歌ったこの2曲は抜群のうまさだった。だから今でも覚えている。「お久しぶりね あなたに会うなんて ♪ あれから何年経ったのかしら ♪ 少しは私は爺様になったでしょう ♪ あなたはいい孫で来たでしょうね ♪ (中略) もう一度 もう一度 生まれ変わって ♪ もう一度 もう一度 バスケットしたいね ♪」。トスティンとの出会い、お久しぶりです。

【2004年 3月29日 午後】

16時から18時までの2時間ケミニッツの「スカラストイックホール」でザクセン州ユース女子(16歳以下)選抜チームの練習を見学した。テーマは1:1のデイフェンスとシュートであった。

1:1のデイフェンスはフットワークのラインドリルからスタートして、ドリブルを使ったジグザグ1:1、クローズアウトからの1:1、そして最後はダブルチーム1:2と練習は進行した。デイフェンス練習が続くと集中力に欠けることを考えてか、合間合間にシュートドリルをはさんでいた。シュートドリルは3人1チームで組み、必ず動きながら、ゲームシチュエーションを考えたドリルが行われていた。もちろん全員ワンハンドシュートであった。

日本の女子のように(現在は違うだろうが)悲壮感が漂うような練習ではなく、和気あいあいと行われていた。どちらかというレベルは日本のほうが上のように感じた。

夕食を食べてから、いよいよ本日のメインイベント、ケミニッツ99(NINERS)の練習見学である。場所はNINERSのホームコート「ハートマンホール」で、指導者は我らがトスティン・ロイブル。

クリニックのトピックはオフボールスクリーンとポストマンがダブルチームされた時のチームルール、そしてトランジションデイフェンスなどであった。特にオフボールスクリーンの代表的な「ピンダウンスクリーンプレイ」のブレイクダウンドリルに感動した。今ではどこでも知れわたっているドリルであるが、当時は初めて見るドリルだったので目から鱗。

トスティンが行うドリルは、同じドリルの形から色々なスキル、プレイを発展させ、休む人を作らず、連続性のあるものばかりである。一つのドリルは短時間で終了し、徐々に難易度が増えてくるように作られている。トスティン氏のクリニックを受けるようになってから、私もこの原則を真似している。

①ドリルの形は同じ②徐々にスキル、プレイの難易度を増す③連続する④短時間 (続)